

札幌市下水道事業中期経営プラン2020進行管理報告書（令和元年度決算）概要版

総括

プラン2020の4年目である令和元年度は、管路・処理施設の維持管理及び再構築、災害対策の推進など、予定した事業を着実に実施することにより「安全で安心な市民生活の維持」「環境に与える負荷の低減」に努めました。

財政面においては、下水道使用料収入の微増や、維持管理費と企業債の支払利息の減少により、令和元年度の資金収支及び年度末の累積資金残高は、当初見込みと比較して好転する結果となりました。

今後も効率的な事業執行に努め、計画的・安定的に下水道事業を継続していきます。

主要施策の展開

【基本目標Ⅰ】安全で安心な市民生活を維持します

【施策目標1】下水道機能の維持向上

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	R1	R2
下水道施設の維持管理	①下水道本管の簡易調査延長 (H28-R2累計値)	km	1,430	2,740	4,010	5,430	6,840
			1,440	2,791	4,065	5,478	—
	②下水道本管の詳細調査延長 (H28-R2累計値)	km	212	424	636	848	1,060
			223	448	667	906	—
	③取付管の詳細調査箇所数 (H28-R2累計値)	か所	4,000	8,250	12,750	17,500	22,600
			2,689	7,351	13,130	19,555	—
下水道施設の再構築	④処理施設の設備修繕箇所数 (H28-R2累計値)	か所	180	360	550	750	950
			187	394	562	774	—
	⑤管路の改築延長 (H28-R2累計値)	km	14	33	57	85	119
			10	26	45	67	—
	⑥処理施設の改築施設数 (H28-R2累計値)	か所	7	13	21	22	23
			8	15	19	22	—

①下水道本管の簡易調査（5年間で6,840km）

施設の機能維持のための目視による点検調査
目標の5,430kmを上回る5,478kmの調査を実施しました。

②下水道本管の詳細調査（5年間で1,060km）

修繕や改築の必要性を総合的に判断するためのテレビカメラなどによる詳細調査
目標の848kmを上回る906kmの調査を実施しました。

③取付管の詳細調査（5年間で22,600か所）

異常発生率の高いコンクリート製取付管の詳細調査
目標の17,500か所を上回る19,555か所の調査を実施しました。

④処理施設の設備修繕（5年間で950か所）

水再生プラザ、ポンプ場などの機械・電気設備の修繕
目標の750か所を上回る774か所の修繕を実施しました。

⑤管路の改築（5年間で119km）

老朽管路の改築や軟弱地盤地区における管路の不等沈下などに対応するための改築
目標の85kmに対し67kmの改築を実施しました。

⑥処理施設の改築（5年間で23か所）

水再生プラザ、ポンプ場などの機械・電気設備の改築
目標の22か所に対し22か所の改築を実施しました。

【施策目標2】災害に強い下水道の実現

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	R1	R2
下水道施設の災害対策	①管路の耐震化延長 (H28-R2累計値)	km	0.3	0.6	0.9	1.1	1.3
			0.3	0.7	1.0	1.5	—
	②水再生プラザ、ポンプ場の耐震化 (H28-R2累計値)	か所	0	1	3	3	4
			0	2	2	2	—
	③雨水拡充管の整備延長 (H27：197.7km) ※（ ）は単年度値	km	198.7 (1.0)	199.6 (0.9)	201.2 (1.6)	202.5 (1.3)	204.3 (1.8)
			198.3 (0.6)	199.7 (1.4)	201.3 (1.6)	203.1 (1.8)	—
	④圧送管バックアップシステム整備率 (H27：84%) ※（ ）は単年度値	%	93(9)	97(4)	100(3)	100(0)	100(0)
			88(4)	93(5)	94(1)	95(1)	—

①管路の耐震化（5年間で1.3km）

緊急輸送道路下などにある管路の耐震化
目標の1.1kmを上回る1.5kmを実施しました。

②水再生プラザ、ポンプ場の耐震化（5年間で4か所）

揚水機能を確保するためのポンプ棟、ポンプ場の耐震化
目標の3か所に対し2か所の耐震化を実施しました。

③雨水拡充管の整備（令和2年度までに204.3km）

目標の202.5kmを上回る203.1kmを整備しました。

④圧送管バックアップシステム（令和2年度までに100%）

圧力状態の管路について破損した場合でも送水が補えるよう複数のルートを整備
目標の100%に対し95%の整備率、北24条桜大橋の整備にあわせて行っており令和4年度に100%となる見込みです。

【基本目標Ⅱ】環境に与える負荷の低減に努めます

【施策目標3】清らかな水環境の保全と創出

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	R1	R2
下水道整備と水質改善	①合流式下水道対策率 (H27：70%) ※累計値	%	70	70	70	70	70
			70	70	70	70	—
	②目標放流水質達成率 ※単年度値	%	100	100	100	100	100
			100	90	100	100	—

①合流式下水道の改善対策を完了した区域の割合

令和2年度は70%、手稲水再生プラザの整備完了後の令和5年度に100%となる見込みです。

②年度ごとに設定する各水再生プラザの目標放流水質達成状況

毎年度100%という目標に対し100%の達成率となっています。

【施策目標4】循環型社会への貢献

施策	項目	単位	計画期間（上段：目標値 下段：実績値）				
			H28	H29	H30	R1	R2
下水道エネルギー・資源の有効利用	下水道エネルギーを活用した設備の導入箇所数 (H28-R2累計値)	か所	0	1	1	3	4
			0	0	1	1	—

令和元年度に予定していた2か所（東部スラッジセンターの暖房・給湯設備の工事）は、入札不調となったため、令和2年度に実施する予定です。

健全で安定した経営への取組

【基本目標Ⅲ】健全で持続可能な経営を目指します

【施策目標5】経営基盤の強化

財務体質の強化

◆施設の延命化とトータルコストの縮減

○計画的な調査、修繕による施設の延命化を図り、将来的なトータルコストの縮減に努めました。

◆民間委託の推進（民間活力の利用の推進）

○設計、工事監理の民間委託を継続して実施しました。
○伏古川水再生プラザの運転管理業務の委託を開始しました。

◆財源確保の取組

○社会資本整備総合交付金を積極的に活用し、建設事業を実施しました。

組織力の向上

◆技術・知識を高める機会の充実

○新規採用職員、転入職員を対象とした下水道基礎研修、水再生プラザ見学会を実施しました。
○下水道実務発表会などを通し、各課の業務内容などについての情報共有を図りました。
○イントラネットを活用し、技術情報の配信や共有を図りました。

◆技術力の向上

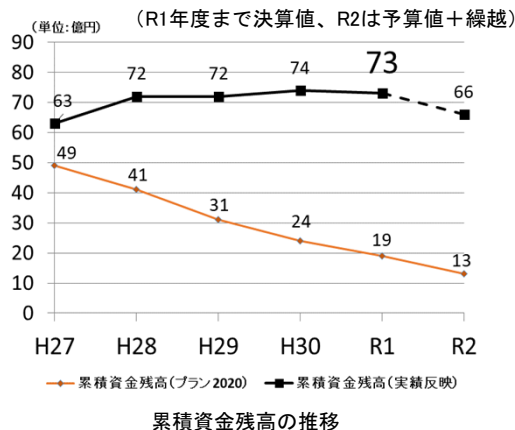
○他の自治体との技術開発に関する会議に参加し、知識の習得や向上に努めました。
○下水処理の高度化や都市水環境の保全を目的とした大学への研究委託を通じ、専門性の高い技術や知識の習得に努めました。

◆危機管理対応能力の強化

○札幌市全体の災害対策訓練に加えて、局内の災害対策本部訓練を実施し、災害対応能力の向上を図りました。

資金残高の見通しについて

プランでの見込みよりも、下水道使用料収入が2億円増収となったことや維持管理費が4億円減少したことなどから、令和元年度の資金収支は当初の見込みよりも5億円好転しました。また、年度末の累積資金残高は、プランの見込みと比較して54億円好転し、73億円となりました。



下水道サービスの向上

「情報提供」による市民理解の促進

◆次世代の担い手となる子どもたちへの環境教育の充実

○子ども向けパンフレットを用いて小学校への出前授業を実施しました。
○創成川水再生プラザの団体見学を実施しました。
○「ミニさっぽろ」へ下水道のブースを出展しました。

◆下水道科学館による取組

○新たなイベントを企画し、年間を通じて継続的にイベントを実施しました。
○来館者数は過去3番目に多い49,424人でした。

◆その他の広報活動

○下水道事業パネル展を開催し、過去最多の2,874人が来場しました。
○下水道の魅力を発見する写真を募集し、各区役所や写真部がある市内高校へカレンダーを配布しました。



下水道科学館のイベント



小学校への出前授業

「市民参加」によるニーズの把握

◆広報事業を活用したアンケート調査

○下水道科学館や下水道事業パネル展、小学校への出前授業を活用してアンケート調査を実施しました。

◆出前講座制度の活用

○下水道事業に関する分かりやすい情報提供及び対話によるニーズの把握に努めました。

◆その他の広聴活動の充実

○「下水道に対する意識について」をテーマに市民意識調査を実施しました。



広報イベントでのアンケート調査



出前講座